

[第854回ゼミ報告] 2023年3月17日号

「本物なら議員辞職」「捏造なら辞職しない」と発言。「怪文書」「捏造」から「不正確」と表現ダウン。かつて首相の辞任発言も結局うやむやだった… 3月8日のゼミは、『柄谷行人『力と交換様式』第1部第1章「交換様式Aと力」を斎藤さんの報告で行いました。マルクスの「資本論」で交換に生じる物神、貨幣交換での機能の根源に物神崇拜・フェティシズムの用語を用いた。古代ローマなど氏族社会の構成原理は贈与の互酬交換である、贈与交換に霊の力をみる。人類学者モースは贈与交換が霊の力とは容認しないが、しかし交換様式Aを成り立たせるのは霊の力であり、人々の意識では交換は成り立たない。前期フロイトは快感原則と現実原則の二元的枠組みだが、後期フロイトは第1次大戦の戦争神経症患者から反復脅迫を見出して修正し、受動的振る舞いと、さらに超自我概念を提起し人の心的構造はエスと自我と超自我の3つの領域なるとし、快感原則・現実原則を超えた自律的・自己規制的なものを見て、さらにユーモアが快感原則の彼岸にあり、そこに優しい慰めを見出している。マルクスは物神に至ったが、史的唯物論に戻ってしまった。人類社会の初期・遊動社会から、定住で、様々な葛藤と対立が生じた。

討論では、とても独断的な論理展開だ。贈与交換と商品交換での人間の関係の違いは商品交換では収奪に至ること、物神崇拜へ。互酬とは共同体内での狩猟のように一人ではできず信頼関係が基礎。交換のない時代があり定住で交換、いや定住と移住は繰り返されていた、焼き畑農業。生産が交換の前にある、いや交換が先にあり生産へ。ここでは労働や生産体制の問題が出てこない。互酬と物々交換の関係はどうか。“結”とは一種の脅迫観念ともいえる。柄谷は商品物神をいうが、マルクスは貨幣物神、資本物神まで述べている。

会場参加は小野さん・川口さん・松村さん・山口さん・高田、オンライン参加は斎藤さん・竹内さん・後藤さんの8名でした。

* 3月22日(第4週)ゼミも、午後5時半(or 45分)から8時です。

・オンライン情報 Zoom: ID: 838 0474 9552 パスコード: 981075

* 3月22日からのテキストは斎藤幸平『ゼロからの『資本論』』です。

* 資本論3巻は、2016年8月24日に始まり、2023年2月22日に終わりました。ゼミ回数は59回で終了、各回の報告者の方、お疲れ様でした。

***** ゼミ日程 *****

3月22日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋
斎藤幸平『ゼロからの『資本論』』第1章 商品に振り回され 報告・川口さん
4月12日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋
柄谷行人『力と交換様式』第1部第2章 交換様式Bと力 報告・竹内さん
4月26日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋
斎藤幸平『ゼロからの『資本論』』第2章 なせ過労死は・・・ 報告者未定
その後 5/10, 5/24, 6/14, 6/28, 7/12, 7/26 【アイクルの部屋】

◇第三学科事務局/高田好章: ytakada@kcn.ne.jp 090-8658-3755
HomePage: <http://ysweb.g.dgdg.jp/ytakada/kisoken/> Pass: kiso